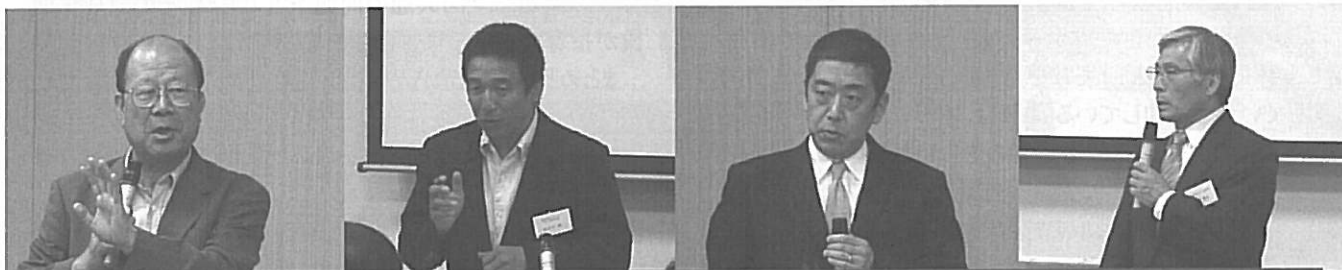


全柔連 だより

題字/嘉納行光

●発行人/上村春樹 ●編集/広報委員会 ●発行/財団法人全日本柔道連盟(<http://www.judo.or.jp/>)



少年柔道指導者セミナー報告

平成21年8月3日・4日の2日間、味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて、第1回少年柔道指導者セミナーが開催された。本セミナーは、全柔連の少年指導者養成分科会の主催によるもので、指導者の質的向上を図ることを目的としている。今回は、各都道府県の柔道連盟・協会から推薦された指導者51名(男性49名、女性2名)が参加した。



開講の挨拶で上村春樹全柔連会長は、「嘉納師範は柔道修行の究極の目的を“己を完成し、世を補益する”ことにありと説かれています。その柔道を通した人づくりのためには指導者の養成が必要不可欠です。また、私たちの役割は、本物の柔道を正しく後世に伝えていくことであり、そのためには“礼法を守り、正しく組んで、理にかなった技で一本をとる柔道”の実践を目指したい。漢字の柔道も横文字のJUDOも別物ではなく同じ柔道です。日本で創始された柔道は今や世界の誰もが認める文化となってきました。今後は日本の指導者と海外の指導者との交流の場を増やして行きたいと考えています。それにより世界の柔道の現状を肌で感じてほしい。このセミナーを通じ、皆さんには知識や指導法



の共有化、最適な指導法などについて活発な議論を図っていただきたい」と述べられた。

また、小野沢弘史全柔連専務理事が、「本セミナーを契機に指導理念や指導方法の共有化が図れば、より効果的で安全な少年柔道指導の確立が進められることになり、本来の趣旨が達成される」「昨今、少年柔道において勝利至上的な動向があるが、少年柔道は、思い切りの良い技と技のぶつかり合いから次のステップにつながることは言うまでもない。今後いかなる指導が必要なのか、大きな課題であろう。家庭環境の変化により失いかけている“しつけ”“思いやり”などの涵養を含め、柔道修行の究極の目的に回帰し、柔道の発展に寄与していただきたい」と開講の経緯と趣旨を説明した。

